磐城
海岸タイムス

發行日　毎月十日
廣告料　一行　五十錢
購讀料　一ケ月　十錢
福島縣平町城山
編輯兼發行人　大畑鈴一郎
發行所磐城海岸タイムス社

全國に範たる
平市西洋料業組合

從來、本會は平西洋料理業組合の事業の一部でしたが、本年一月十七日全會員出席の第三回總會で組合より分離を決議し、今後獨立して一切の事業を致す事になりました、

◉役員◉

會長　平會館　淺岡千代子
常任幹事（會計）　バッカス　渡邊ユキ子
同　天地　藤本トシ子
同　喜多屋　坂本タキ子
同（會計）　金春　御代綾子
同　大國　堀井トシ子
同　ナナ　渡邊キミ子
幹事　京樂　八島ハナ子
同　平樂　根本松子
同　ミッキー　佐藤ミナ子
同　米久　水澤キミ子
同　松の壽司　草野ハナ子
同　安兵衛　薄井朝子

▽私達は堅き信念を以て下記の申合せを實踐窮行致しませう

◉申合事項◉

一、國家非常時局に際し私達は堅く手を握り合つてお國の爲にお店の爲に眞劍に働きませう
一、國民精神總動員の旨を奉じ大日本國防婦人會平女給教養班として一糸亂れず、一層銃後後の護りを堅く致しませう
一、冗費を省き廢物を利用し、國家經濟策に沿ふ樣努力致しませう
一、修養講習會、研究會等には必ず出席して品性の向上をはかり他の蔑視を受けぬ樣努めませう
一、集會時間は必ず勵行してお互ひに迷惑かけぬ樣致しませう
一、華美の風習を慎み世上の誤解を招く樣な言行を致さぬ樣注意しませう

◉愛國一錢貯金百圓突破◉

昨年十月より回を重ねる事七度、總計金百拾貳圓八拾錢の多額に達しました。皆樣の眞心こめた協力が、僅か一錢をして遂にこんな大きな實を結ばせました。お金は下記の通り有意義に各方面へ贈りました。

戰ひはこれからであります。店主と從業員心を一つにして、今後とも奢侈を慎み、冗費を省いて、御國の爲に貴い一錢を捧げませう。

愛國一錢貯金收支報告

一一二、八一　收入之部
六九、四七　支出之部

支出內譯

二八、九七　飛行機愛國號献納金
一五、〇〇　若松聯隊戰傷軍人慰問金
一五、〇〇　平市細民同情金
五、〇〇　樺太國境警備警察官慰問金
五、〇〇　若松聯隊軍人娯樂室建設費並恤兵金

四三、三四　差引殘高

愛國一錢貯金第七回報告

平會館　二圓五十錢　バッカス　二圓二十五錢
天地　三圓三十錢　京樂　八十四錢
米久　國　四十一錢　平樂　七十一錢
犬　一圓六十五錢　ナナ　三十五錢
喜多屋　四圓七錢　金春　一圓二十八錢
安兵衛　一圓十三錢　ミッキー　一圓十三錢
サロン　十九圓六十二錢
計　九十三圓十九錢
累計　百十二圓八十一錢
總計

▽集會日——毎月二回
第一回目——廢物取り集め
第二回目——愛國一錢貯金集め

▽集金當番——會費◉愛國一錢貯金及廢物の取集め當番は、毎月下記の各班が順に常る事（一店一名宛）
（當番は必ず割烹衣着用のこと）

▽金錢保管——一切の金錢は組合會計により保管する事

第一班　喜多屋　金春　安兵衛
第二班　ミッキー　松の壽司　平會館
第三班　バッカス　天地　京樂
第四班　米久　平樂　大國　ナナ

事務所　平西洋料理業組合　平市三丁目天地內
平女給教養會　仝　平會館內

縣下建築界の雄
中山吉之助氏

氏は石城郡川部村に孤々の聲を上げ、長ずるに從い建築界に身を投じ今や縣下に於ける有數の建築請負業者として赫々たる盛名を成し、つゝあり氏が今日の地位に達する迄には實に奮鬪努力の賜である事は言をまたず事業に對しては信用をモットーとして誠心誠意の努力振りであり、故に氏に依つて成し來つた事業に對しては未だ不平の聲を聽いた事もない亦一面非常に配下を愛し幾多の事業に成果を納めつゝあり其の手腕識見共に既に一般周知の事實である、終りに今後の活躍と健全を祈る

暑中御伺

『清世界』
發賣元
清水屋本店
食料品部開設
福島縣石城郡小名濱町
電話六番

清水屋漁業部
主任　小野禮一
福島縣小名濱港
電話六番

土木建築請負鐵道船舶仲士請負
三崎組
太田勝康
東京市神田區三崎町二ノ十七
電話九段（33）四七五四番
福島縣石城郡小名濱町古港六三
電話二〇二番

平市四丁目
電話二三四番　マルトモ書店
電話一二四番　マルトモ運動具店
電話一二三番　マルトモ食堂

福島縣湯本町
入山採炭株式會社
坑務所

福島縣石城郡好間村
古河炭礦株式會社
好間鑛業所

日本曹達株式會社
小田鑛業所
福島縣石城郡好間村

福島縣石城郡好間村
隅田川炭礦々業所
礦主　小田吉治

白水炭礦會
神奈川炭礦採鑛業所
壽炭礦採鑛業所
浪花炭礦採鑛業所
杉山炭礦鑛業所
高階炭礦鑛業所
五十嵐炭礦不動澤鑛業所

福島縣石城郡平市
堀江工業株式會社

川部村
江藤炭礦
江藤武一郎

株式會社
勿來驛前
山添炭礦々業所
電話一二番

城北炭礦々業所
渡邊茂

洋食と喫茶
調理人は東京東洋軒仕込
平市田町
電話28
福壽軒

非常時に於ける

武道の本義と修行の目的

武道は心身の力を最も有効に使用する道である先づ第一に柔道に關する修行の點を話すとその修行とは攻撃防禦の練習によつて身体精神を鍛錬修養し柔道の眞髓を体得する事である、さうしてこれに依つて己を完成し世を稗益する

(三)　己を完成し世を稗益

己を完成すると云う事は身体を鍛へ精神を錬り己れの天分を十分に伸しつゝ他人の幸福を併せ圖る事によつて一層自分の人格を立派にみがきあげる事であるこの目的を達する爲めには心身の精力をつまらぬ事に費してはならぬのであつて即ち精力善用の原理に基いて働かせねばならぬ又「世を稗益する」と云う事は國家社會を正しく明るくし世界人類の共榮を願ひつつ何事もその念願に基いて行ふ樣にすることである、そのためには自分のことばかりを考へず自分の望みを遂げると同時に他人の望みをも遂げさせる樣に努め讓り合ひ扶け合ひ自他共榮の大方針に從ひ即ち精力善用は自己を完成する原理であり自他共榮は社會生活を向上發展させる原則である、さうして眞實に自他共榮であるためにはどうしても精力を善用せねばならず又、精力の善用は自他共榮の理想を實現して行く事によつて始めて完全な意味を持つてくるものである、かう云ふ譯で精力善用自他共榮は柔道本來の愉快な使命であり目的であることを、はつきり理解してをかねばならぬ

今や柔道は世界各國に於て競つて研究し修行しつゝある

(一)　心身の精力を最も有効に使用する道何事をするについても精神の力や身体の力を善い目的に向つて一番役立つやうにはたらかせる原理のこと

これを約めて精力善用とも云う

(二)　攻撃防禦の練習

敵を攻め己れを守つて戰ふ武術の練習のこと武術の心得はいかに文明開化の世の中になつても必要で護身のためにも身体精神の鍛錬修養のためにも非常に役立つものである柔道の修行に用ひる攻撃防禦の方法は精力善用の原理を体得するに最も都合よく人間は生れてから死ぬまで無手でをる場合が最も多いからこの武術は主として無手の場合の自由自在な勝負法として仕組で居る

先般平市高月臺福島縣立磐城中學校會議室に於て磐城柔道有段者會の總會開催せられ相馬、双葉、石城三郡の「オール」有段者相集り非常時に於ける武道の本義等の講話あり閉會後住吉屋本店樓上にて橋本六段の退職慰勞併て片寄五段の体育功勞表彰祝賀を兼ね懇親會開催席上鷹崎七段の柔道に關する講演橋本六段の挨拶等あり後小宴を催し嚴肅裡に散會せり

暑中御伺

貴族院議員 勳四等 金成通
衆議院議員 星一
衆議院議員 比佐昌平
前代議士 鈴木辰三郎
縣會議員 小野晋平
小名濱町長 縣會議員 關内正一
平市會議員 縣會議員 蓮沼龍輔
平市會議員 縣會議員 野崎滿藏
平市會議員 縣會議員 草野三郎
縣會議員 小松章
植田町長 古川傳一
平市 諸橋久太郎
小名濱築港事務所長 内務省技師 福來總十郎
小名濱町助役 高木保
收入役 樋口速

小名濱漁業組合長 水野政次郎
大日本電力平營業所
福島縣平驛前 平電力株式會社
片倉磐城製絲株式會社
平藝妓屋組合
平西洋料理業組合
平料理屋組合
平市庶民金庫 專務 諸橋敬一郎
植田水力電氣株式會社
二本松電氣株式會社 小名濱支店 電話二七番
小名濱料理旅館組合 組合員一同
勿來信用販賣購買利用組合 組合長 小松清三
湯本信用購買販賣利用組合 小名濱信用株式會社
福島縣町村長會 石城支會
石城郡内各學校長會
石城銀行組合

植田町 山田屋本店 電八番
和泉屋旅館
流線型セダン貸切 鈴木片濱自動車部 平市四町目 電話二一七番
高級貸切 好間澤渡乘合 三井タクシー 平市二丁目 電六八五
野崎自動車合資會社 平驛前 電三四三
大型バス貸切 尼子自動車部 平市二丁目 電話六四〇番
江戸前カフェー 杵寿し
評判と實際の店 天地 平銀座 電六七九
御好評のアイスクーリム（十五錢） 平市田町 電三五三
食事 喫茶 酒場を兼ねた ソロモン
大衆的の 富士食堂 電話六七七番 平市聚樂館隣
◆出前迅速◆